

令和5年度第1回新津第五圏域支え合いのしくみづくり会議報告

日時：令和5年6月5日(月) 10:00～11:30

会場：新津地域学園 304 研修室

【出席者】

満日コミ協：小池社会福祉部会特別会議委員、新津東部コミ協：馬場福祉健康部委員、阿賀浦コミ協：坂口社会福祉部員、
新関コミ協：繁野福祉健康部副部長、新津東部地区民児協：小林会長、新津阿賀地区民児協：山田副会長、
老人クラブ新関地区協議会：堤会長、NPO 法人たか坪の会：上杉副理事長、包括にいつ日宝町：遠藤所長、
秋葉区健康福祉課高齢介護担当：林副主査
秋葉区社協：横山事務局長補佐(事務局)、熨斗地区担当、小林 SC (1 層)、時田 SC

【令和5年度の動き】

令和5年度地域福祉活動計画（地区別計画）と支え合いのしくみづくりについて

- ・地区別計画は地区ごとに地域コミ協（地区社協）と相談し、地域福祉懇談会を年2回（1回目：今年度の取り組みの打ち合わせ、2回目：振り返り）開催し、様々な団体や関係機関と連携して地域課題や地域福祉活動に取り組む。
- ・支え合いのしくみづくりについては、圏域の課題について検討し、地区や圏域の地域福祉活動に活かすなど地区別計画と一体となった活動を進めることで、よりよい地域づくりにつなげていく。

【内容】

テーマ① 見守り対象外世帯の課題について

見守りの現状・課題	アイデア・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none">・見守りされたい人、されたくない人がいる。・ひきこもりの世帯に周囲はどうしたらよいのか分からない。 →訪問を希望していないかもしれない、関係機関につなぐことで攻撃を受けるかもしれない。・ひきこもり世帯で母親は関係機関に相談したいと思っているが、父親が相談したくないと思っている世帯がある。	<ul style="list-style-type: none">・長い目で見る必要がある。・4層、5層があってもよいのではないか。場合によっては自治会単位ではなく<u>組単位での見守りが有効</u>。 →組単位であれば高齢者世帯やサラリーマン世帯など状況が分かるので、関わりやすいのではないか。・困りごとの個別対応は難しい問題だが、<u>地域全体で取り組むこと</u>

見守りの現状・課題	アイデア・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり、発達障がいのある世帯がある。近所には何かあったら教えてほしいと伝えている。 ・8050世帯で気になる世帯が2件ある。高齢者をきっかけに訪問をしているが、親も年を重ねるので、今後が心配。 ・8050世帯は当事者が希望しないと関係機関は介入できない。 ・親が認知症で施設に入ったが、子どもはひっそりとしていて地域の人とは関わりを持ちたくない様子である。今はそっと見守っている。 ・信頼関係はしくみでは作れない。 ・時々、包括支援センターのチラシを配ることで精いっぱい。 ・阿賀浦地区では、新津東部地区が作成した相談一覧表を阿賀浦地区でも作れないか検討している。 ・情報を把握する手段がない人もいる。 ・草水町は民生委員と福祉委員が集まって情報交換している。 ・外に助けを求めない人も多い。 ・コロナに感染するのが怖くて茶の間に行けない。 ・一人世帯が増えている。サロンが見守りの場となっている。 ・日中一人暮らしを含め、一人・二人暮らし高齢者が多い。移動などが不便なため、高齢者が住みにくい。 	<p>はできる。<u>見つけた人（発見した人）が関係機関に相談することはできるのではないか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>8050世帯にはゆるやかな見守りをする。変化があったときは関係機関に教えてほしい。介入のチャンスかもしれない。</u> ・きめ細かい地域づくりをするためには第3層に人がいるとよい。 →役割のある人の配置。 ・<u>気づこうとする気持ちは大切。</u> →支援を待っている人もいるかもしれない、無理やり入り込んではいけない。 ・手を挙げている人に手を差し伸べることが大事。 ・<u>信頼関係をどう作っていくか考えていく必要がある。</u> ・<u>相談一覧表の作成</u> →各世帯で相談機関の情報が分かれば、<u>関係機関につなぐことができる。</u> ・<u>情報が民生委員や関係機関に流れるしくみになるとよい。</u> ・<u>見守りの場の一つとしてサロンを継続して開催する。</u>

- ・若い世帯は回覧板を見ない。(若い人への周知が課題)
- ・アパートの中の状況が見えない。どう対応したらよいか分からない。
- ・アパートのひとり親世帯の状況がつかめない。
- ・若い人との交流が少ない。顔が分からない。

- ・個人情報の壁があって地域の状況がわからない。
→子ども産まれても人が亡くなくてもわからない。
- ・身寄りのない人もいる。

- ・災害時要支援者名簿は災害時の体制でどう助け合うか考えることが大切。
- ・小口は地形的に除雪が大変。新関地区として検討していきたい。

- ・若い世帯、若い人への周知としてメール等の手段を検討していく必要がある。

- ・この会議でしくみまで作っていくことが大切。
- ・地域の状況が違うので、地域で参考にしていくことはよい。

テーマ② 支え合いのしくみづくりの取り組み方法について（地域の相談窓口について）

課題	アイデア・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の意見をまとめたり、共有できる役割を担ってくれる人がいるとよい。 ・地域で支え合いを一緒に考えてくれるような人がいるとよい。 ・自治会・町内会で福祉課題を共有しにくい。 ・地域住民で助け合うことが大切だと思う。 ・民生委員は情報を伝える役割を担っている。 ・昨年度の圏域ケア会議で除雪をテーマに行い、様々な意見が出ていたが、それを活動に繋げることができていない。 ・サロンや茶の間以外で認知症予防のために行ける場所についてどこに相談したらよいのか悩んだことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>支え合いのしくみづくり会議の内容を地区ごとに共有していく。</u> ・<u>地域で意見が出た時のまとめ役がいるとよい。</u> ・<u>地域と関係機関との連携が必要。</u> ・<u>圏域ケア会議の内容を活動に繋げる際に、どのように行うのか整理が必要。</u> ・<u>茶の間やサロン以外の行ける場所について情報があるとよい。</u>